

# 共に育つ

2024年5月 太田友子



新緑が輝く心地よい季節となりました。いよいよ学校園生活が本格的に始まりました。

さて、新たにご縁をいただき、城南学園小学校長として就任いたしました。城南学園幼稚園長との兼任になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

通信『共に育つ』では、最大の教育環境である「保護者」の皆さまが子育てを振り返るきっかけの一つとなることを願って発信してまいります。

学校園で大切にしていることをご理解いただき、ご家庭と「共に」育て、私たち大人も「共に」育ってまいりたいと考えています。

## 「学びに向かう力」が育つ学校園

幼稚園では、「小学校につながる確かな学びの基礎を培う幼児教育」を教育方針とし、豊かな遊びから「学びに向かう力」の基礎となる活動を大切にしています。この教育方針とともに「幼稚園の開かれた明るい雰囲気」が本園入園の決め手に毎年あげられています。

次に、小学校では、この幼稚園での基礎を踏まえ、「学びに向かう力」が育つ学校を教育方針としています。そのためには、「落ち着きと明るさ」「温かいまなざし」そして「考える楽しさのある学びの場」がいっぱい！の学校づくりを進めています。

さらに、小学校ではこれまで進学校として「確かな学力」を重視してきましたが、これを支える「学びに向かう力」も併せ持つ子どもの育成をめざしています。実は、この「学びに向かう力」は、国際的にみても日本の子どもの一番の課題であると指摘されています。「与えられた課題には取り組めるが「主体的に学習に取り組む態度」は極めて脆弱であるというのです。

この原因の一つに、「見える学力」「点数で測れる学力」を効率的に身に付けさせる教育が重視されてきたことがあげられます。一方、本校入学の決め手の一つに、「人間性の育成が重視されている。」があげられています。その人間性ですが、どのような人間性を、どのようにして育てるのが問われているのです。



例えば、挨拶についてはこれまでも指導してきましたが、実践できている子どもは多いとは言えません。

先述した「学びに向かう力」が根底に育つと、「いつ」「どこで」「だれに」挨拶するのかを考えて実践できるようになります。そのために、「振り返り」活動を取り入れています。

校長講話を受けて、学級での振り返り活動により、これまでの経験と新たな知識を関連付けて「深い学び」へと至った児童。実践力につながる行動変容が見られた事例。

挨拶のことは、1年生の時からずっと「相手の目を見て、分離礼！」と言われてきました。今日、朝会で校長先生には、この子だけ！と決めずにどんな人にも、自分から挨拶をするということを教えてもらいました。今日から誰にでもしっかり挨拶をします。



小学校では、あらゆる活動の中で「学びに向かう力」が育つよう、活動前に見通しをもったり、活動後に振り返ったりする場を設けています。

「先生、次に何をやるの？」という指示待ちの声ではなく、「先生、次は〇〇だから、～をしないと...。」というような見通しをもった「学びに向かう」発言が聞かれるようになることをめざしているのです。

そのため、幼稚園では、一日の生活に見通しをもって過ごせるよう、3歳児から「活動の絵カード」を黒板に掲示しています。5歳児になると、活動カードを常に意識しながら次の活動の準備を自分からするようになります。

また、幼稚園では、教師との対話により、話し言葉で活動を振り返ることができるようになってきていますが、小学校ではさらに書き言葉でも振り返られるよう発達段階を踏まえて導いています。

## 『共に育つ』学校園での「今」



本校園のメリットとして、園児と児童とが常に触れ合い、学び合いができることです。異年齢による関わりは貴重な経験です。

先日も5歳児が音楽室を訪問し、2年生と一緒に学習を体験しました。



2年生も大歓迎してくれて、「幼稚園の子に分かりやすいように」と「リズムを簡単に」する心遣いも提案されました。その後、図書室にも訪問し、国語辞典に興味をもった姿を見た小学校教員は、早速5冊ほど年長児に貸し出してくださいました。